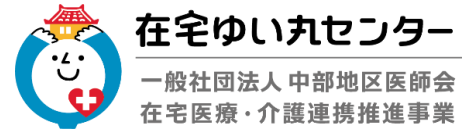


高齢者シリーズ研修会（第1弾） アンケート集計結果報告書



日時：令和6年6月27日（木）19:00～21:00

開催方法：会場（嘉手納町中央公民館大ホール）＋オンライン（Zoom）開催

テーマ：「認知症高齢者の医療介護連携 ～今一度、課題と向き合う～」

周知方法：開催案内文書の郵送、当センターHP掲載、メーリングリスト一斉送信、FAX送信

周知範囲：中部地区12市町村の医療介護関係施設（約1750か所）、他

●参加者数

会場 参加人数：36名 アンケート回答数：20名（会場回答率：約56%）

Zoom 参加アカウント数：30アカウント

アンケート回答数：18アカウント（Zoom回答率：約60%）

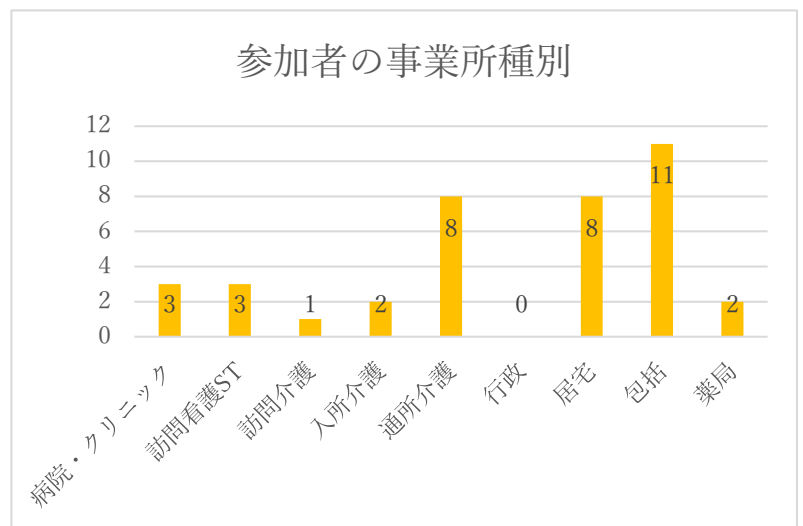
合計 参加人数：36名（会場）＋30名（Zoom）＝66名

トータル参加人数 66名

アンケート回答率：58%

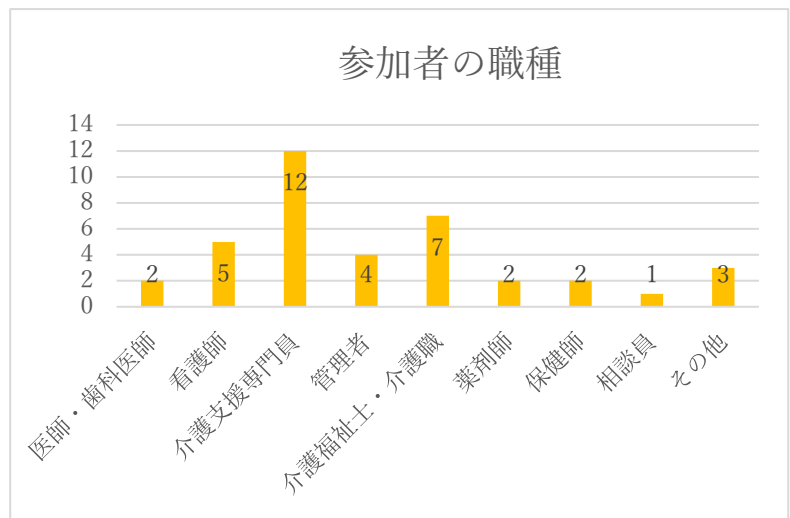
●参加者の事業所種別（n=38）

	数	割合
病院・クリニック	3	7.9%
訪問看護ST	3	7.9%
訪問介護	1	2.6%
入所介護	2	5.3%
通所介護	8	21.1%
行政	0	0.0%
居宅	8	21.1%
包括	11	28.9%
薬局	2	5.3%
計	38	100.0%



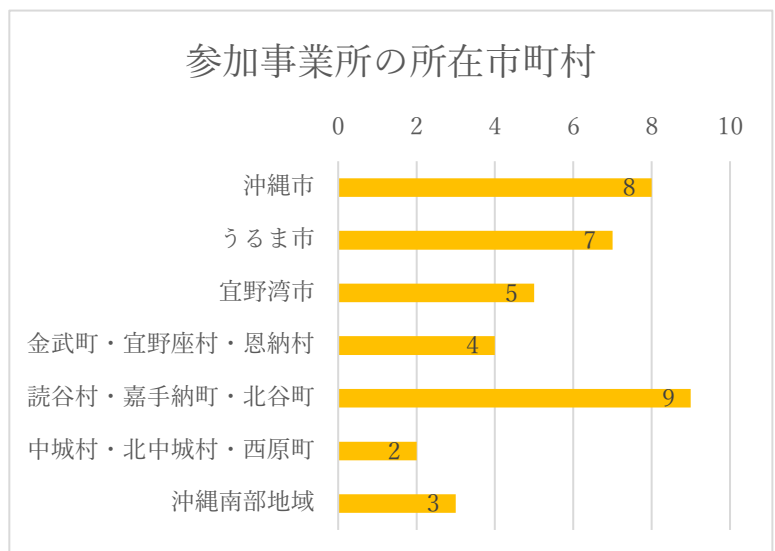
●参加者の職種 (n=38)

	数	割合
医師・歯科医師	2	5.3%
看護師	5	13.2%
介護支援専門員	12	31.6%
管理者	4	10.5%
介護職	7	18.4%
薬剤師	2	5.3%
保健師	2	5.3%
相談員	1	2.6%
その他	3	7.9%
計	38	100.0%



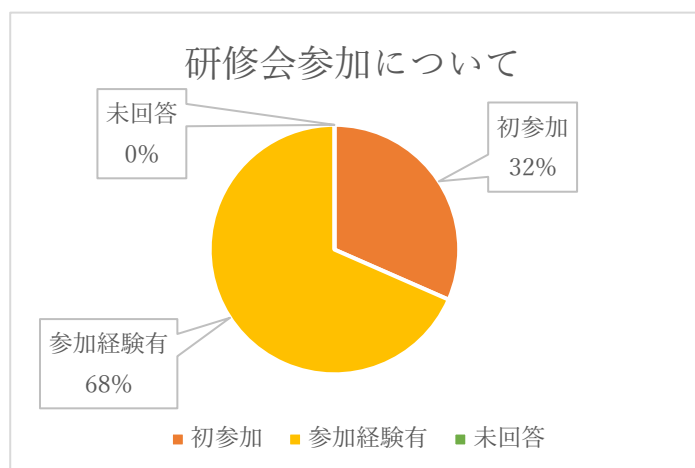
●参加事業所の所在市町村 (n=38)

	数	割合
沖縄市	8	11.8%
うるま市	7	10.3%
宜野湾市	5	7.4%
金武町・宜野座村・恩納村	4	5.9%
読谷村・嘉手納町・北谷町	9	13.2%
中城村・北中城村・西原町	2	2.9%
沖縄南部地域	3	4.4%
計	38	100.0%



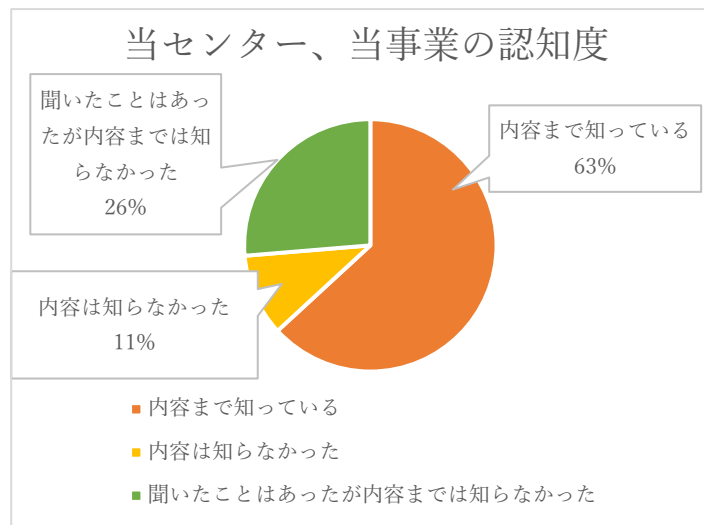
●研修会への参加について (n=38)

	数	割合
初めて参加した	12	31.6%
参加したことがある	26	68.4%
未回答	0	0.0%
計	38	100.0%



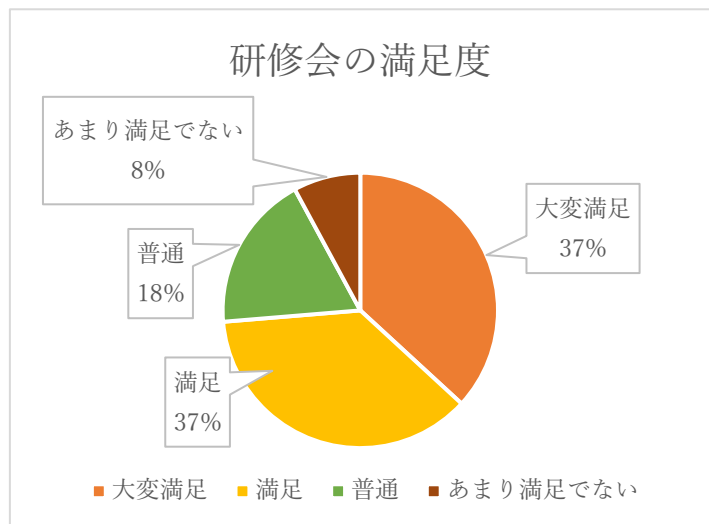
●当センター、当事業の認知度 (n=38)

	数	割合
内容まで知っている	24	50.5%
内容は知らなかった	4	31.8%
聞いたことはあったが 内容までは知らなかつた	10	17.8%
計	38	100.0%



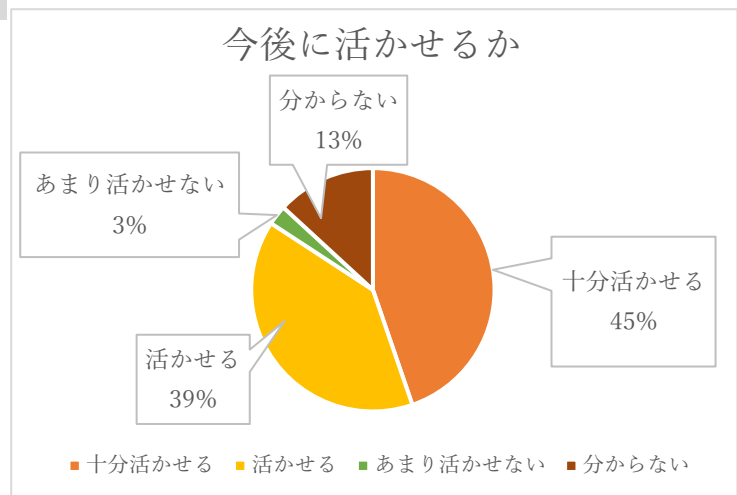
●研修会の満足度 (n=38)

	数	割合
大変満足	14	58.9%
満足	14	37.4%
普通	7	1.9%
あまり満足でない	3	1.9%
計	38	100.0%



●今後の業務に活かせるか (n=38)

	数	割合
十分活かせる	17	44.7%
活かせる	15	39.5%
あまり活かさない	1	2.6%
分からない	5	13.2%
計	38	100.0%



●記述式アンケート結果

【当研修会の感想】

1	認知症初期介入方法のいろいろなやり方
2	数名の方の事例を聞いて、これから生かせる事がありそうなので、試してみたいです。
3	聞きとりづらかった。
4	互いの専門性を知り、認め合うことが大切であることを学びました。 ありがとうございました。
5	直ぐに変えるのは勇気やエネルギーが必要。認知症に関わらず対人援助に大切な内容におもいました。
6	1番チームです。訪問看護と薬剤師との連携エピソードはとても感銘を受けました。
7	グループワークの仕方が良かったです
8	システム理論 課題と問題の違い
9	グループワークで多職種の意見が聞けたこと
10	音声はかなり不安定で聴き取り理解するのに大変苦慮した。
11	理論談から実務展開技術に繋がったので勉強になりました。
12	グループワークのメンバーと話した事例は、知らない事を知れて良かった
13	途中音声聞こえなかったり聞こえづらくなったりした為少し残念でした。
14	音声が悪く、会場の方の発表がほぼ聞こえなかったもので、もったいない感じがしました。 ケアマネになったばかりで、まだ振り返りができる程余裕がない毎日ですが、全体的な視点で考える必要があるというのは、大事だと思いました。
15	認知症の方への対応。グループワークのコツ
16	講師の玉城氏による支援者として医療機関との連携を図っていく際のキーポイントの説明は大変分かり易く今後の参考になりました。
17	ネガティブケイパビリティ、システム理論、エンパシー 確かにしている。役に立っていたし 今後も心がけて支援したい
18	グループワークで皆さんに質問や感想を伝える際、私は利用者さんとの信頼関係を築くことを大切にしていると感じました。すぐに必要な支援に繋ぐことは難しいことを理解し、時間がかかっても関わりを続けることの必要性を学ぶことができました。
19	質問の仕方、否定しないと決めることで話しやすくなりました。
20	ネガティブケイパビリティ。すぐに結論に飛び付かず状態を受け入れること。問題に対しての気持ちの整理や取り組み方に大切なことだと感じた。
21	グループワーク等で色々な医療、福祉の業種の方々の体験、経験のお話を聞く事で対応のヒントになりました。 講師の玉城様のお話を聞いて、振り返り、気づき、学び、対人援助の仕事は前人未到の仕事である、言葉の理解、で経験を通じ理解を深め次の行動に活かせる事が大切である事を感じました。
22	連携に関しての基本的な技法が理解出来た。
23	今回の研修に参加して、難しいケースであっても、あきらめずに、いろいろと学ぶ事で、

	<p>解決に結びつく事があるとわかりました。</p> <p>利用者さんの支援と同時に、ケアに従事する職員の気持ちに配慮するヒントをいただきました</p>
24	Action モデルの部分を読んで、解決や対策のヒントになった
25	<p>グループワーク時に画面オンにしない、声掛けに対して返事もない方がいた！ワークがあるのであればそこは顔の見える関係性作りも兼ねているので改善して欲しいと感じた！</p> <p>(途中退室してしまいごめんなさい)</p>
26	<p>今回も気づきにつながる良い研修でありありがとうございました。今回の題材は自分が今まさに支援に悩んでいる物でした。最近では認知症こそ支援に影響が強い疾患と感じている状況で、研修の中では「前人未到の仕事」とお話がありましたが本当にそうだと思います。必要な事を理解できない状態に対して同サービスや医療に繋げていくか？支援方法に耳を傾けました。提案方法を「行くか行かないか？」ではなく「A 事業所と B 事業所ではこういう違いが有って、どちらを体験しますか？」という質問に変えた事で繋げる事が出来たというお話は参考になりました。誰一人として同じ支援は無く答えも無いという事もとても勉強になり共感しました。講師の玉城さん、会の運営の方に感謝申し上げます。</p>
27	認知症に限らずいろんな視点を持つことが重要と感じた
28	グループワークは良かったが時間がもう少し欲しかった。皆さん沢山しゃべりたかったはずだが一番手の方が時間を取りすぎて3番手、4番手はほとんど意見言えずにいた。
29	認知症の方に対するアプローチを学んだ
30	グループワーク内での実例の報告や取組みについて話し合いができた。
31	支援にあたっての言語化できにくい暗黙知について、知識や経験を言語化し、情報共有できるようにしていきたい。
32	zoom の人数を増やして欲しかった
33	<p>自分の思考のクセが分かった。みなさんが色々な考え方で支援していることが分かり、参考になった。</p> <p>近くの事業所の方と交流ができた。</p>
34	今回研修会参加させていただきグループワークで多職者さんからの意見を聞き私達現場でも参考に出来るかできる限り取り組みたいと思いました。
35	グループワークで多専門職の話も聞けて良かった
36	振り返り方を学ぶことで、次へ活かす方法を学べた。

【開催して欲しいテーマや、その他ご要望】

1	難病への支援方法や制度の活用
2	地域医療の活用について
3	認知患者について
4	それぞれの職種の出来ることを共有する機会があれば様々な選択肢を示せると感じた。
5	医療機関の書類手続きについて、支援者のいない方の対応など。
6	高齢者の孤独死
7	要支援の方に色々な資源を介入していく際の大変だった色々なケースを知りたい。
8	権利擁護
9	医者とケアマネがスムーズに連携を取れる秘訣
10	医療の現場での高齢者の受け入れの考え
11	救急対応時連携
12	顔の見える関係作りで、名刺交換会、自己紹介にほぼ時間を最低やったと言う話を聞いて、凄くいいなと思ったのでやってみたい
13	認知症の方の具体例
14	認知症
15	キーパーソン不在のクライアントの対応
16	2時間という研修時間は仕事終わりには適していると思いますが、テーマによってはもう少し時間が欲しいなと感じました。グループワークが組まれており、色々な視点から意見が聞けるので参考になります。
17	各職種での困り事、どうして欲しいのかを聞きたいです。包括で勤めているので病院の困り事など、また、参加者の所属がグループの方のみしかわからなかったのですが、役所の職員も参加して欲しいです。
18	認知症の方の服薬支援 薬剤師が関わることのメリットなど
19	認知症の関わり方、予防方法。
20	看取りについてやって欲しい。
21	退院支援
22	緊急時の対応など、実体験など聞きたいです。
23	身寄りの無い方への取組事例など
24	高齢者介護で精神疾患をお持ちの方へのアプローチや支援方法も聞いてみたい内容の一つです。機会があれば宜しく尾お願いします。
25	医療分野の方で介護を、介護分野の方で医療をという風に他職種をしっかりと理解したうえで連携が図られている事業所間の好事例があれば知りたい。
26	身寄りがいない方の支援。
27	認知症の種類別の症状について
28	利用者が体調不良時スムーズに診察できる仕組み
29	接遇、コンプライアンス、クレーム対処法
30	認知症関連

31	色々な場所で開催して欲しい。グループワークの時間を十分に確保して欲しい。
32	看とり医療介護連携
33	第2段をお願いしたいです
34	医療機関の受診拒否が強いが、明らかに何らかの異常がみられる（受診勧奨したい）ケースへの支援について。

●結果、考察

今後増加する認知症高齢者の支援困難に対し、現在それぞれの専門職が行っている認知症高齢者への支援内容（自身の経験）を振り返り深掘りする事で、各地域の医療介護連携の工夫やポイントを再認識し、問題点の共通理解とそれを研修後の業務に活かして実践に繋げる事を目的に本研修を開催した。

会場（嘉手納町中央公民館）とオンライン（Zoom ミーティング）のハイブリッド形式で開催し、会場 36 名、Zoom 30 名、計 66 名の参加があった。近隣地域の事業所の顔の見える関係作りを強化できるよう、今年度より各地域の会場での研修開催、グループワークを近隣地域で構成するなど工夫した。アンケート結果から、「これから生かせる事がありそう」「連携に関しての基本的な技法が理解出来た」「気づきにつながった」等、多くのご感想をいただく事ができ、概ね本研修の目的は達成できたと考える。

Zoom 音声聞き取りづらい場面があり、音声確認が不十分であった可能性がある。今後、初めて利用する会場では Zoom 音声確認を不足なく行い、参加者にとって学びの多い研修機会として引き続き体制を整えたい。

＼会場の様子①／



＼会場の様子②／



＼グループワークの様子／

